

# フライングディスク競技規則

## 日本フライングディスク連盟競技規則より

### 第1条 競技・種目

競技は、日本障害者フライングディスク連盟の競技規則を参考とし、アキュラシー競技のディスリートファイブ、ディスリートセブンと※ディスタンス競技を行うものとする。

### 第2条 アキュラシー競技

#### 1 競技フィールド

- (1) 競技は平坦かつ障害物のない地域でなければならない。
- (2) サイト（1プレーヤーが競技する競技場）の設置は追い風を原則とする。
- (3) 各サイトの間隔は、アキュラシーゴール間の距離を5m以上とする。
- (4) 競技場には吹流しを設置する。

#### 2 用具

##### (1) ディスク

競技用ディスクは、日本フライングディスク協会公認および推奨品（含む日本障害者フライングディスク連盟公認）の「ファーストバックモデル」で、直径23.5cm、100±5gとする。

##### (2) アキュラシーゴール（標的）

材質：鋼鉄製で円形部はオレンジ色焼付仕上げとする。

形状：内径91.5cmの円形とする。パイプの径は2.5cmとする。

位置：アキュラシーゴールの前面がスローイングラインと平行で外形の最下部が61cmになるように設置する。

##### (3) 足留材

足留材は、投げる側の面がスローイングライン上になるように設置し、その構造は次の通りとする。

材質：木製またはプラスチック製とする。

色：白色

形状：長さ160cm、幅6cm、高さ4cmとする。

止め方：競技場に完全に固定する。

スローイングアシストライン：視覚障害者にスローイング方向がわかるように、スローイングライン中央からアキュラシーゴール方向に直角に直径1.5cm、長さ50cmの丸棒を設置する。

### 3 競技

#### (1) 競技種目

ディスリート・ファイブ：スローイングラインの中央よりアキュラシーゴールまでの距離を5mとする。

ディスリート・セブン：スローイングラインの中央よりアキュラシーゴールまでの距離を7mとする。

#### (2) 競技方法

- ① プレイヤーは、10回（10投）連続して試技するものとする。
- ② スローイングのほうほうは自由とする。
- ③ 補助具も含め、競技上有利となる用具の使用は認めない。
- ④ プレイヤーが視覚障害の場合、競技役員がアキュラシーゴール後方3mの距離から音源で知らせることができる。

- ⑤ 試技の時間は、プレイヤーが1投目のディスクを受け取ってから5分とする。  
5分をこえた試技は無効とする。

(3) 得点

- ① 得点は、ディスクが地面に触れずに直接アキュラシーゴールを通過した回数とする。逆方向から通過した場合は得点とならない。
- ② 得点と同じであった場合、10回(10投)の試技において、第1得点を先に取得したものが上位となる。第1得点と同じであれば順次、次の得点によって決定する。同順位の場合、上位3名の決定にあたっては、3回(3投)の追加試技によって決定するまで同様の試技を続ける。  
4位以下は、同順位とする。

(4) 反則

- ① プレイヤーが競技中にスローイングラインの前面を除く上部に触れるか、踏みこえたときには無効とする。
- ② 車椅子または椅子の設置面がスローイングラインの上部または外側の地面にふれるか、踏みこえたときには無効とする。フットレストがスローイングライン上の空間に出るのは認める。
- ③ 補助具は、身体の一部とみなされる。
- ④ 無効となったスローイングは、1回の試技とみなされる。